

練習問題

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

(注1) 陸奥守みちのくのかみためなか為仲と申ししが、国にまかり下りて、五月の四日、館たちに、(注2) 庁官とかいふもの、年老い

たる出で来て、(注3) 菖蒲あやめふ茸かするを見れば、例の菖蒲にはあらぬ草を茸あき

屋根や軒に菖蒲を飾らせるのを見ると

蒲こそ茸く日にてあるに、これはいかなる物を茸くぞ」と問1はせければ、「伝へ承るは、この

国には、昔、五月とて菖蒲茸くことも知り侍ら

B

けるに、(注3) 中将の御館みたちの御時、『今日は菖蒲

国司でいらつしやつた時

を茸くものを、いかにさることもなきにか』とのたまはせ

そのようなこと

C

ば、『国の例、さることも侍ら

ず』と申しけるを、『さみだれの頃など、軒しづくの雫も、菖蒲よりこそ、今少し見るにも聞くにも、

心澄むことなれ。はや茸くべきなり』と侍りけれど、『この国には生おひ侍らぬなり』と申しけれ

ば、『さりとて、いかでかかひなくてはあらむ。(注4) 安積あさかの沼の花が(注5) つみといふものあり。それ

を茸け』と3 のたまはせけるより、こもと申すものをなむ茸き侍る』とぞ。

〔今鏡〕

(注) 1 陸奥守為仲——橘為仲(？)一〇八五。一〇七六年、国司として陸奥に赴任。

2 庁官——国司の役所の役人。

〔出典〕

『今鏡』

〔重要語句〕

○申す

○まかる

○例

○承る

○侍り

○いかに

○さる

○のたまはす

○いかで

○かひなし

〔古典常識〕

○陸奥

○守

3 中将——藤原実方（？～九九八）のこと。九九五年、国司として陸奥に赴任。

4 安積の沼——福島県にある安積山の麓にあった沼。

5 花がつみ——水草の名。後出の「こも」も同じ。

問一 二重傍線部の「ぬ」と文法的意味の同じものを、次のア～エから一つ選べ。

ア あはれ今年の秋も往ぬめり。

イ いまだ見ぬことぞ。

ウ はや、舟に乗れ。日も暮れぬ。

エ 秋の夜の長きに独りぬるが苦しき

--

問二 空欄A～Cについて、A・Cは助動詞「けり」を、Bは助動詞「ず」を、それぞれ適切な

形に活用させて入れよ。

A		B		C	
---	--	---	--	---	--

○五月

○菖蒲

○中将

○さみだれ（五月雨）